

introduction

平成 25 年に“運動器疾患にかかわる人の必須の新しい概念－ロコモティブシンドローム・サルコペニア・虚弱－”について、本誌 32 巻 10 号で「知る診る防ぐ！ロコモティブシンドローム」と題して特集しました。あれから 10 年以上が経過したこともあり、今回改めて「医療関係者が知っておきたいロコモ・サルコペニア・フレイル」というテーマで特集を組むことといたしました。

人生 100 年と言われるようになったわが国では、健康寿命延伸が国の施策であり、要支援・要介護となる最も大きな要因が運動器疾患です。その運動器疾患に関係するロコモ・サルコペニア・フレイルに関し、この 10 年間で、「虚弱」は「フレイル」へと表現が変わり、「サルコペニア」では診断基準から年齢の項目が削除され、「ロコモ」には新たにロコモ度 3 の評価法が追加されるなど、各概念にいくつかの改定がみられました。そこで今回は、整形外科医や運動器にかかわる医療スタッフが専門書に頼らずとも最新の知識を容易に習得できる内容を目指して項目立てを行いました。専門書に記載されている詳細な内容はそちらに譲り、日々の診療や看護の傍らに手軽に参照できるような 1 冊を目指しました。

本特集では、まず総論として、ロコモ・サルコペニア・フレイルの概念と疫学について解説いただき、続いてそれぞれの評価・判定法を概説していただきました。各論では、ロコモの代表的な運動器疾患や「がんロコモ」について取り上げています。また、予防や進行防止の基本となる運動療法と栄養療法については、生活指導を含め、基本的事項やトピックスを中心に解説していただきました。さらに、対策としてロコモ・サルコペニア・フレイルの予防および介入、地域における具体的な取り組みについてもご紹介いただきました。

それぞれの項目においては、ミニマムリクワイアメントと最新の話題に基づき、表やイラスト、画像を多用して執筆いただいておりますので、読者にとって大変理解しやすい内容となっていると思います。

本特集が、一般の整形外科医や運動器にかかわる医療スタッフにとって、ロコモ・サルコペニア・フレイルの対策、診療、看護の一助となることを願っております。最後になりますが、ご多忙のなか、本号にご執筆いただきました先生方に改めて深く感謝申し上げますとともに、本号が読者の皆様の日々の診療や看護の現場で役立てられることを祈念し、巻頭言のご挨拶といたします。

潤和会記念病院
帖佐悦男